看護学生をアルバイトの看護補助者として採用する意義

髙橋 陽子[1)] 見田野 直子[1)] 鈴木 三和[1)] 樽見 桂子[1)] 町田 恵理子[1)]
山本 美穂[2)] 金井 雅史[3)] 風晴 俊之[4)] 美原 盤[5)]

1)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 看護部
2)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 広報課
3)公益財団法人脳血管研究所 法人本部 人事・総務課
4)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 事務部
5)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[はじめに]看護・看護補助者の人手不足は病院にとって深刻な問題であり、看護師確保のために看護学生(学生)に対する奨学金制度を設けるなど、看護師教育機関と連携を密にしている病院は少なくない。当院では看護・看護補助者の人手不足を補填するために、学生をアルバイトの看護補助者として採用した。この取り組みの意義について報告する。

[取り組み]学生をアルバイトの看護補助者として採用するにあたり、業務内容、待遇について看護部、人事・総務部で検討、採用案内のポスターを作成、教育機関に配布した。看護大学から 4 名、看護専門学校から 1 名の学生を採用できた。勤務開始 1 ヶ月後、師長が学生と面接した。学生はケアを通じて、患者とのコミュニケーション、患者を理解することの重要性に気づいていた。

[結語]学生がアルバイトとして看護補助者として病院で働くことは、人材確保のみならず、患者を理解する貴重な機会となり、その意義は大きい。